

## 令和7年度 第3回磐田市社会教育委員会 摘録

日 時	令和8年1月13日(火) 13時30分～15時30分
場 所	磐田市役所 西庁舎3階 302会議室
出席委員	浅羽委員長、三輪副委員長、高橋委員、山田委員、大場委員
事務局	自治デザイン課長、ダイバーシティ推進室長、担当職員2名

### [会議概要摘録]

#### 1 委員長あいさつ

#### 2 報告

##### (1) 地域学校協働活動や不登校児童・生徒の居場所に関する取組について

(学校教育課)

##### (主な説明内容)

- ・「学校教育」と「社会教育」が連携を深め、こどもたちの「生きる力」を地域全体で育もうとすることが大切である。
- ・学校運営協議会では、「地域でどのようなこどもを育てたいか」というビジョンの共有も行い、教育課題の解決にむけた熟議を行う。
- ・CSD(コミュニティ・スクール・ディレクター)・CSC(コミュニティ・スクール・コーディネーター)は学校と地域の重要な「橋渡し役」を担っているが、待遇改善や人材育成が課題である。
- ・交流センター(地域づくり協議会)等との連携により、防災、祭典、イベント等への児童生徒の参画が活発化している。
- ・竜洋中学校では「竜洋の20年後を考えるワークショップ」、岩田小学校では「岩田故郷の会」と連携し、耕作放棄地の利活用を通じた学習を行っている。
- ・校内教育支援センターでは、少人数での人間関係から人とのつながりに慣れる。どの学校にも常時開設できるように取り組んでいきたい。
- ・地域に期待することは、①「熟議」への積極的な参画とビジョンの共有、②多様な専門性や知見を提供すること、③子どもを「地域の担い手」として受け入れ育てること、④持続可能な支援体制の構築と「人材の発掘」をすること、⑤「Win-Win」の関係に

よる地域の活性化を図ること、⑥地域の公共の場に子どもの居場所を確保すること、⑦子ども食堂など、子どもの生活を支援する居場所の充実を図ること等である。

- ・地域には、地域のイベントに計画段階から子どもたちが主体的に参画できる「出番」を創出することや、今後10年を見据えた「Next コミュニティ・スクール」を支える多様な人材（会社経営者、NPO 法人代表、学識経験者など）の選定支援も期待している。
- ・行政に期待することは、各部局の所管事項に関する専門的事項を踏まえた「本物の学び」の機会を提供することである。
- ・居場所充実のための官民連携については、民間のフリースクールの活用、相談窓口や親の会として民間の支援団体が主催するものの利用等、連携して行うことにより、よりよい支援ができる。

(主な意見)

- ・学校の情報を地域に発信し、学校として助けて欲しい部分の情報をもっと広めて欲しいという声がある。また、学校から地域への要望だけでなく、学校地域の双方向の関係性が必要である。
- ・学校運営協議会の運営の工夫や地域学校協働本部的な役割を果たす組織を設けるなどして、教育計画策定段階から地域と学校の協働が求められる。
- ・居場所づくりの具体的な在り方について意見交換ができる官民連携の場が必要である。
- ・居場所づくりからの発展として「何か別の目的でその場に行ったときに顔を合わせ、声をかけあえるような『居合わせる場所づくり』」が大切である。

(3) こども・若者育成支援大会について

資料1

(4) 第66回全国社会教育研究大会岩手大会の参加報告について

資料2

(5) 第56階関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会の参加報告について

資料3

### 3 審議

(1) 社会教育関係団体に対する補助金交付状況と活動予定について 資料4

(主な意見)

特になし【承認】

### 4 その他

(1) 静岡県図書館大会の報告について

### 5 閉会